





花

娘



光四編上

種彦中

四

頁

四

光四編上

第九四編上冊

億年田源氏

柳亭種彦作  
歌川國貞画



是第九四編を歌舞妓の根本不壁を口明へ遷標の續き  
めて作を物住吉の社の景に擲掛り一面の松並木其縁を  
明石より連なる宮系り岸中を浪の音言く陸へ初知入  
行列と遠見は袖もぬるある田蓑の島や難波は道具  
かたりにて口明の詰む六條田南乃仮住隣家の琴の鳴物も  
幕ひらくと橋の縁語墨を紅葉よ阿ふ坂山石山移をそ  
かきりと忠驛路の終よ田舎歌園屋をちるると二目へさしあ  
帯の舞所と寄る舞ふかへる世話場と轉ぶる時代時繪の  
東山大紋素袍の諸士の大詰りつるもあつちの打物も又  
と紙つらよち戻り園屋のすゑの後目よ抄しつ

天保丁酉解凍

柳亭種彦記



喜代之助の  
妻  
空衣

ちやうね  
うみ

色坂の園や  
いろちからせたるれば  
まげき秋の  
ちやうとこころん



阿古木の女  
磯菜

光氏

とらふとらふ  
ゆき  
ちやうと  
新しき  
たぐひ  
ちやうや  
まゆ

阿古木の女













あつらひのきりぎりすの  
うたがは...  
あつらひのきりぎりすの  
うたがは...

あつらひのきりぎりすの  
うたがは...  
あつらひのきりぎりすの  
うたがは...



あつらひのきりぎりすの  
うたがは...  
あつらひのきりぎりすの  
うたがは...

あつらひのきりぎりすの  
うたがは...  
あつらひのきりぎりすの  
うたがは...



あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...

あまのついでに...







國貞画  
種彦作

東都本末園字通技釋

佛社芳州集 全三冊

佛社散葉集 全三冊

佛社金四歌仙 全一冊

東都本末園字通技釋

佛社今人附合集 全四冊

佛社今人普白集 全二冊  
素貞年早春出版

書肆

江戸通油町  
仙鶴堂 勢屋本古書部蔵

針



高

鶴

九四編下





東入正五郎

# 為家可 源氏

九曜文庫

第廿四編 下冊

## 種彦作 國貞画

関屋



仙窟堂壽梓

かき  
目とわ  
ゆくとくとせとせとめ  
清の 人  
と かんらん



















ねがひをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
そのまはまはまは  
あはれをもちあがりて

あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて

あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて

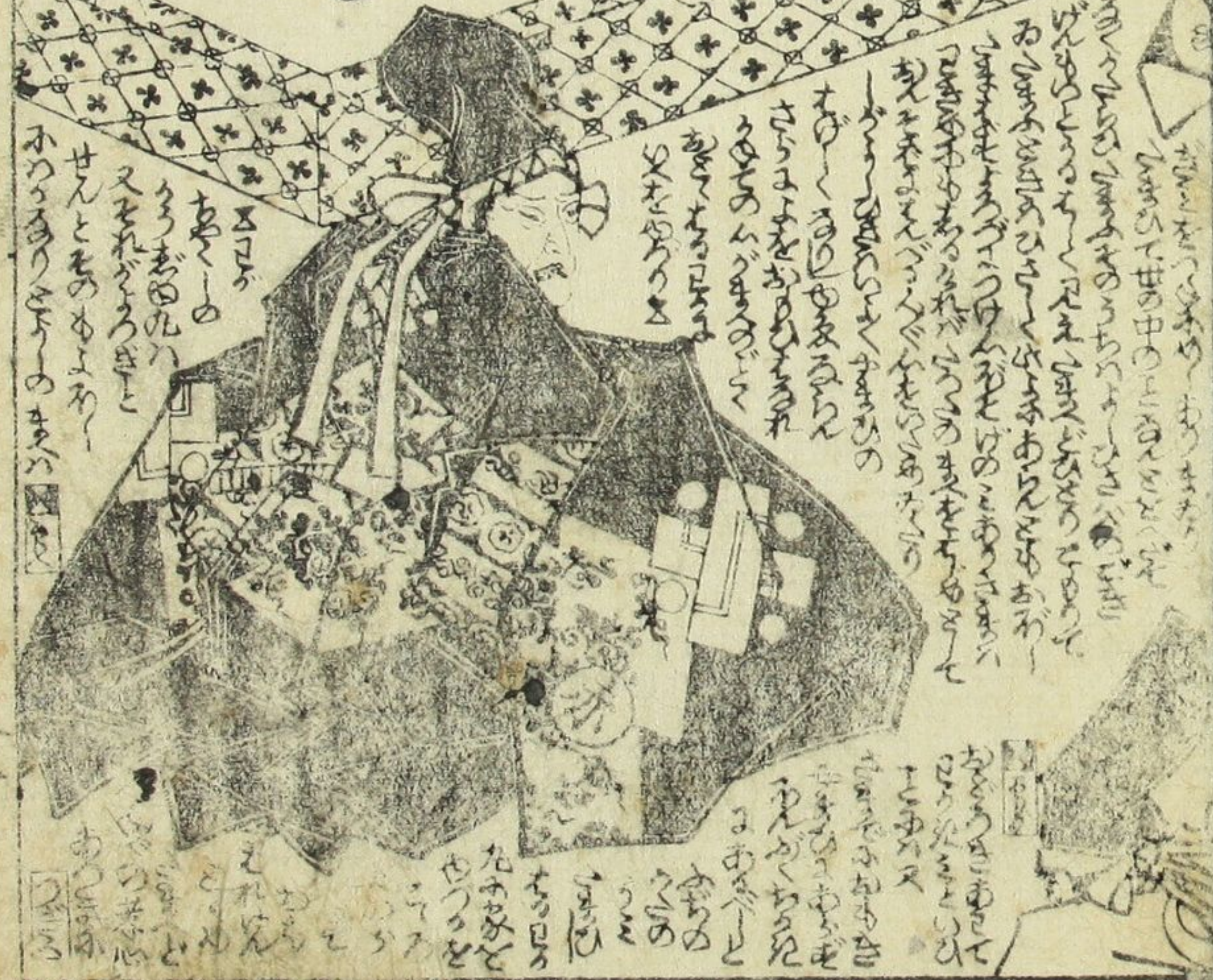
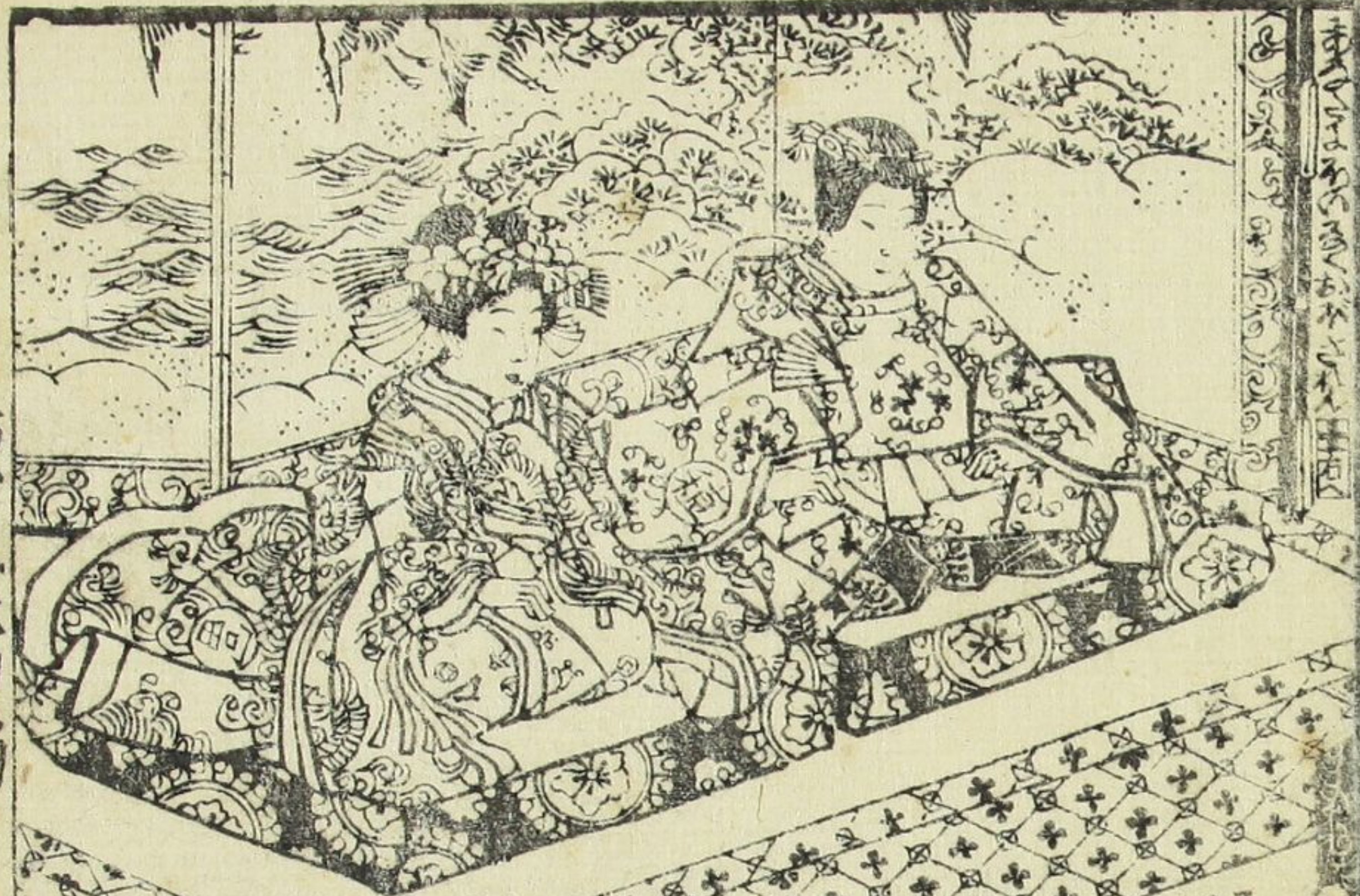


あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて

あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて

あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて  
あはれをもちあがりて

Vertical columns of handwritten text in a cursive script, likely a Japanese dialect or a specific form of shorthand. The text is densely packed and runs down the right side of the page.



Vertical text on the left margin of the page, possibly a page number or a title.







